

プログラム近況報告

2014年度(2013年10月1日~2014年9月30日)

World Vision

この子を救う。未来を救う。

ウガンダ共和国

キルヤンガ地域開発プログラム(UGA-192491)

チャイルドストーリー

家の近くの井戸で きれいな水が汲めるよう になりました

キルヤンガ地域開発プログラム(以下、ADP)の支援地域に住むジェーンちゃんの家族は、以前は池で汚れた水を汲むか、2キロ離れた隣村の井戸へ水を汲みに行くしかありませんでした。しかし2014年2月に、長い金属棒をトラックに乗せた作業員たちがやってきてから、状況は大きく変わりました。その「長い金属棒」で地面に穴が掘られ、一週間後に水が出ると、ポンプが設置されました。それまで水を求めて遠くまで歩かなければならなかった村の人々は、井戸から水が出たのを見て歓声をあげました。今ではジェーンちゃんの家族を含む村の100世帯以上がこの井戸を使っています。

井戸は掘った後の管理も重要です。ADPでは、7人のメンバーから成る水管理委員会を立ち上げ、村の人々が自分たちで井戸を清掃し、利用者からお金を集めて故障時の修理に備えることができるように手助けしています。また、井戸の修理ができる技術者も養成し、村の人々が井戸を長く使い続けることができるように支援しています。

いつも学校から帰った後に水汲みのお手伝いをしているジェーンちゃん。小さい体で5キロのタンクを毎日家まで運びます。「汲んだ水は、飲んだり、料理や洗濯、水浴びに大切に使っています」と笑顔で話してくれました。



井戸で水を汲みのお手伝いをするジェーンちゃん(7歳)

家の近くにきれいな水が出る井戸ができて、とても助かっています。



汲んだ水を運ぶジェーンちゃんと母親のベアトリスさん(40歳)

教育プロジェクト

子どもたちの学習環境の改善に努めています

子どもたちの学習環境を整えるために、2014年度は小学校に教室やトイレを建設しました。また55人の教師に対して、指導法に関する研修を行いました。教育の大切さを学ぶ集会も行い、827人の地域住民が参加しました。これらの取り組みを通じて、2010年には6人で1冊の教科書を使っていましたが、2014年には1人1冊持てるようになりました。また教室の数が増えたことで、1教室当たりの児童数を86

人から62人まで減らすことができ、学習環境が改善されつつあります。

しかしこれらの努力にもかかわらず、就学児童のうち小学校を修了できる割合は17.2%で、特に女子は10人中9人が中退してしまう現状があります。いかに中退率を下げ、初等教育の修了を目指すかが今後の課題です。



教育の大切さを学ぶ集会に**827**人が参加



建設された新しい教室で学ぶ子どもたち



教育の質の改善や初等教育修了率向上について話し合う学校関係者

水・衛生改善プロジェクト

安全な水を飲み、衛生習慣が身に付くよう取り組んでいます

2014年度、安全な水や、優先されるべき医療サービスを各世帯に提供することで、マラリアなど5歳未満の子どもたちを死に至らせる病気の感染を抑えるよう努めました。県や郡の保健担当局と協力し、深井戸の整備や、水源の保護、雨水タンクの設置などを行いました。65カ村で安全な水を飲むことができる人々の割合は、2010年の46.7%から、2014年度は74.5%になりました。トイレの普及も進み、現在は94.9%の家庭が自宅にトイレを持っています。また石鹸や灰を使って手洗いをする習慣も身につけてきました。この結果、支援地域で下痢で苦しむ5歳未満の子どもは、2013年度の267人から2014年度は156人にまで減りました。



住民自身がトイレの必要性を理解し、建設するようになってきています



下痢にかかる子どもの数が **111** 人減りました



支援地域の女性のインタビュー

Q. 家族構成を教えてください。

30歳の夫との間に7歳から1歳までの4人の子どもがいます。父は44歳、母は41歳で、うちから数キロのところに住んでいます。

Q. ADPの活動に参加して生活は変わりましたか。

2人の子どもがワールド・ビジョンのチャイルドとして登録され、支援を受けるようになってから生活が改善しました。メイズ、豆、バナナ、落花生などの

作物を育てて売ることができるようになりました。以前は村の奥の方に住んでいましたが、子どもたちの学校が遠かったので、稼いだお金で学校の近くに家を買って引っ越すことができました。

Q. あなたの夢を教えてください。

昔は結婚するのが夢でした。今は自分のお店を持つのが夢です。



子どもたちとメアリーさん (26歳)



調理用バナナの皮をむくメアリーさん



ADPスタッフ・インタビュー

Q.ADPでどんな仕事をしていますか。

計画通りに活動が実施されるように管理したり、子どもたちが活動に参加するように促したりしています。

Q.仕事をする中で大変なことは何ですか。

地域の人々は、自分の家庭や近所に支援が集中することを期待しがちですが、すべての期待に応えられないことを人々にわかってもらうのが大変です。地域の人々と対話を重ねながら、ADPの支援について理解を深めてもらえるように努力しています。

Q.この仕事を続ける原動力となっているものは何ですか。

子どもたちへの愛情と地域の人々を助けたいという気持ちが原動力です。

チャイルドを訪問するキルヤンガADPスタッフ
ポール・メイエンバ(右)



スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト



チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行うほか、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っていきます。

地域の問題について話し合う中等教育学校の生徒たち

会計報告

UGA-192491

収支計算書 自2013年10月1日 至2014年9月30日

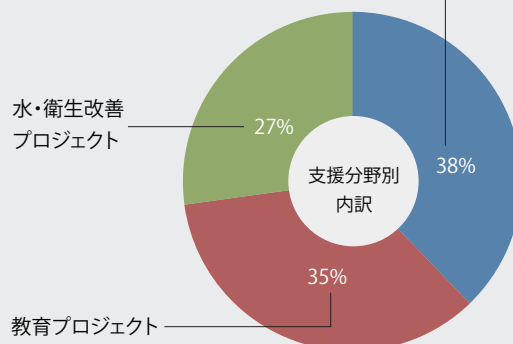
プログラム支援額(単位:円)

チャイルド・スポンサーシップ	24,547,807
当期支援額	24,547,807
前期繰越金	1,058,763
プログラム支援額合計	25,606,570

プログラム支出額

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	9,409,567
教育プロジェクト	8,716,621
水・衛生改善プロジェクト	6,771,020
プログラム支出額合計	24,897,208
次期繰越額	709,362

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト



お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話 : 03-5334-5351 (平日 9:30 ~ 17:00)

FAX : 03-5334-5359

ワールド・ビジョン

検索

ホームページ : www.worldvision.jp

e-mail : dservice@worldvision.or.jp